

理工学部同樹会報

第 22 号

発行日 令和4年3月31日
発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
理工学部同樹会(理工学部内)
題 字 同樹会長 千葉 信行
印刷所 (株) 笹 軽 印 刷

「モノづくりの楽しさ」

青 葉 尚 起

(平成15年 理工学部知能機械システム工学科卒業
平成17年 理工学研究科知能機械システム工学専攻修了)



同樹会会報第22発行にあたり、お慶び申し上げます。この度、本会報への寄稿の機会を頂き感謝いたします。

私は、平成13年に北海道の旭川工業高等専門学校を卒業し、できたばかりの知能機械システム工学科の第1期生の代に編入学の形で入学しました。学生生活は、講義と部活(バドミントン部)で充実した毎日でした。4学年になり、研究室配属では佐藤裕之先生の研究室にお世話になることにしました。理由は、機械構造物の基礎となる材料について学びたかったからです。高専時代から環境問題について興味を持ち、中でも太陽電池の分野に惹かれるものがありました。太陽電池は一見複雑な機械構造物のような印象ですが、理工学部の講義を受けるうちに実は、材料の組成や結晶構造によって性能差を発揮する分野だと気づき、材料強度学がご専門の佐藤先生のもとで学びたいとの思いが決め手でした。

研究室では、Mg-Al合金の一方凝固による結晶制御が主テーマで、まず実験をするための装置を準備することから始めました。高専の出身だった私は、溶接や旋盤、フライス盤といった機械工作については同期に比べ経験が豊富であったため、装置の製作に苦手意識がなく、理工学部棟1階の工作室で、旋盤やボール盤などを使って実験に使う治具を自作していました。時には、頼まれて他の人の実験治具を製作することもありました。その中で特に苦労したのは、Mg-Al合金の局所加熱(高周波誘導加熱法)用コイルの製作でした。通常のコイルでは加熱範囲が広がるため、局所加熱可能な円盤状のコイルを目指しましたが、これが難しく、何度作り直しをしたか覚えていないくらい失敗を重ね、ようやく理想となるコイルが仕上がった時の感動は今も覚えています。

修士課程までお世話になった後に、現職であるDOWAホールディングスに入社しました。DOWAは、非鉄金属業界で「資源循環型ビジネスモデル」を特徴とする企業です。創業137年で培った複数の元素が混

在する難処理鉱物を処理できる高度な製錬技術を基に、経済活動で派生した難処理産業廃棄物から金、銀、銅、亜鉛、レアメタルなど約20種類の金属を完全分離回収し、回収した金属を独自の製造プロセス技術で高付加価値化して新たな製品に組み込む「サステナブル」な社会実現に貢献しています。私がDOWAを選んだ決め手は、研究室で学んだ材料学の知見を活かせる上、多様なモノづくりに携われ、環境問題にも貢献したいと思ったことで、入社して17年経過した今も、間違っていないかなと思っています。

DOWA内では、一貫してモノづくりに携わっています。主に製品をつくるための設備・装置の開発や、工場一つを丸ごと設計するという業務に従事しています。入社以来、様々な設備や装置を設計してきましたが、今までにない処理方法・設備だったり新たな性能の素材を製造する装置だったりするため、一つとして同じ仕事はなく常に未知なことに挑戦しています。わからないことは調べ、仮説を立てて、実験や試験をして確かめながら、一つ一つ設備の仕様を決めていく。そうやって出来た設備が思い通りに動いてくれた時は、何物にも代え難い感動があります。新しいことや未知なことに取り組むことは、不安やどうしていいかわからない気持ちになることがありますが、答えにたどり着くための進め方、そしてたどり着いたときの達成感、これらが弘前大学と研究室で学んだ、最も大きな財産です。

大学は、専門的な知識を与えてくれると同時に最先端の研究に取り組めるところです。在学中の後輩の皆さんにも、わからないことにチャレンジしていく術や答えにたどり着いた達成感を、研究室でしっかりと学んでもらいたいと思います。最後に、新型コロナが発生する前に、一度理工学部の3年生へ講演する機会をいただきました。久しぶりの大学は懐かしかったですが、大学の目の前のコンビニ(ミニストップ)が無くなっていたのにはびっくりしました。卒論や修論の時とはとてもお世話になっていたコンビニでした。

定年退職教員

令和3年度末をもって、数物科学科 渡辺孝夫教授、物質創成化学科 吉澤篤教授、地球環境防災学科 野尻幸宏教授、機械科学科 今西悦二郎教授、機械科学科 村田裕幸教授の5名の先生方がご退職されます。ご退職の先生方におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げますとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、先生方から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。



あっという間の16年間

理工学研究科（数物科学科）

渡 辺 孝 夫

24年間の民間会社の研究所勤務を経て、2006年に弘前大学に赴任しました。退職を前に今思い浮かぶのは、採用当時のことです。何と言っても、弘前の雪は強烈な印象でした。

2006年のちょうど今頃（1月下旬）、面接試験を受けに初めて弘前に来ました。しかし、飛行機が雪で遅れ、面接時間に遅刻。何とか面接を済ませたものの、帰りの奥羽本線がこんどは雪で立ち往生。どうやって青森駅（新幹線の新青森駅はまだ開通していませんでした）に辿り着いたか覚えていませんが、神奈川の自宅に着いたのは深夜でした。翌日は、娘の大学入試のセンター試験だったので、起こさないようにそっと床に就いたのを覚えています。そして、初出勤の4月1日、朝起きると一面の銀世界。もう春なのに雪？と時計が逆回りしたようで、頭がクラクラしました。しかし、数日後に研究室の窓から見えた岩木山は、裾野が綺麗に伸びていて感動しました。こんな美しい山が近くに見える大学だなんて、恥ずかしながら何も知らずにやってきたのです。

さて、研究について一つ印象深いこととお話させて頂きます。私の研究テーマは、高温超伝導材料の超伝導のしくみを調べることです。赴任した直後の2008年に、鉄を含む新しい超伝導物質が発見されました。その中に、鉄-テルル-セレンを構成成分とした化合物があります。この物質は、結晶構造が単純なので超伝導のしくみを調べる基礎研究にもってこいなのですが、一つ弱点があって、それは過剰鉄といって結晶の中に余分な鉄が含まれてしまい超伝導特性を劣化させてしまうのです。世界中の研究者がこの問題に取り組みましたが、決定打はありませんでした。そのような中、私達の研究室では結晶をテルルの蒸気中で熱処理

（テルルアニールと呼んでいます）をすると過剰鉄が取り、劇的に超伝導特性が改善することを発見しました。どうしてそんな方法を思いついたのかと申しますと、実はテルルアニールを過去にやったことがあったのです。それは私が新入社員だった頃、鉛-錫-テルルから成る化合物半導体の単結晶を作製する研究に取り組んでいたことに遡ります。この結晶は、特性を良くするためにテルルの蒸気中で熱処理をして得られるものでした。私は、もしかしたら同様な方法で過剰鉄が取れるかもしれない、と咄嗟に思いついたのです。担当の学生（小鹿優太君）が直ぐに実験に取り掛かり、暫くして「先生、出ました！」とデータを持って来てくれた時は、正直心臓がバクバクしました。

今にして思えば、とても幸運だった、ということに尽きるのですが、教訓じみたことを申し上げれば、超伝導の研究とは一見関係がなさそうな半導体の研究にも真剣に取り組んでいたことが、功を奏したとも言えます。人生に無駄なことは何もなく、若い時にあれこれ悩み経験したことは、その後何かの形で実を結ぶのではないのでしょうか？最後になりますが、このような研究の機会を与えてくださった弘前大学に感謝します。あっという間の16年間でしたが、とても充実した16年間でした。





教うるは学ぶの半ばなり

理工学研究科（物質創成化学科）

吉澤 篤

この言葉を初めて目にしたのは、高校3年生の時に読んだ末川博著「彼の歩んだ道」の中だったと思います。私は京都大学大学院博士課程を修了後、1985年9月に奨学金をもらっていた日本鉱業（株）に就職し、14年半にわたる研究所勤務を経て、2000年4月1日付で理工学部物質理工学科機能素材工学講座の教授として着任しました。

着任1年目の後期から2科目を担当させてもらい、講義の準備が自らにとっても良い勉強となりました。思い返せば、4年生で研究室に配属されてからは体系的な勉強というより、研究に関連した知識をその必要性から急いで身につけようとしていました。自ら講義をしてみて、学生時代にあやふやだった事柄がようやく理解できました。そして、「学生より先に生まれたからではなく、先に生き活きとしていてこそ先生」をモットーに、講義をするのが面白く、学生時代の先輩から「水を得た魚のようだ」と言われました。

着任当初は分かり易い講義を心がけました。OHPを使用し、冗談を交え、内容はあまり深入りしません。しかし、時間とともに、それで良いのかという疑問が強くなり、後半は難しくても本質に迫りたいという思いでした。ピカソの絵を、黒板上で様々な色のチョークを使って解体し、一目見ただけではわからな

い主題をあらわにしていくようなことができないだろうか？60歳を過ぎた数年間は分子軌道法や統計熱力学をもう一度勉強して、講義に取り入れました。残念ながら学生に伝わったかどうかは疑問です。昨年（2021年）ノーベル化学賞を受賞したList教授の受賞対象論文（有機触媒による不斉アルドール反応）を2018年に3年生の講義で宿題とし解説したのですが、受講した学生は覚えていませんでした。また、研究室の文献会では紹介論文を事前に読み、学生の報告のあとに、私が著者とは違う解釈を示して議論をふっかけるのですが、なかなか盛り上がりません。昨年、研究室の学生に対して核磁気共鳴（NMR）の講義をした際には、「先生は学者だったんだ」という反応が返ってきました。一人芝居だったのかもしれませんが、学生さんに対して講義をすることが、自らの研究を進める上でもたいへん役に立ちました。これが大学の良さであり強みと実感しています。

最後になりますが、私が弘前大学理工学部において22年間に渡り教育研究に携わることができたのも、教職員の皆様のご支援と学生さんからの刺激があったからこそです。心から感謝申し上げます。なお、「学園だより」に22年間の思いを綴りました。そちらも読みいただけると幸いです。



弘前で過ごした7年間

理工学研究科（地球環境防災学科）

野尻 幸宏

2015年4月に国立環境研究所から着任し、7年間を過ごさせていただきました。この2月1日には最終講義を実施し、7年間を振り返る機会になりました。卒業研究・修士課程の学生には、長く研究対象にしてきた地球規模の地球化学・海洋化学の課題を与えたいと思いましたが、なかなかセッティングが難しく、現場に密着したサンプリングができる流域の水質や降水の化学などフィールド中心の地球化学研究課題に取り組みました。自身の研究生生活の最初の頃に戻ったような課題で、懐かしく研究が行えました。

研究所での34年間には、大学での最大3回分ほどの分担講義を引き受けたことはあっても、15回を一人で

講義した経験はありませんでした。研究機関や企業から移られた先生方は、皆さん講義準備が本当に大変だと思います。私も、学科と大学院で3つの15回講義、2つの学生実験、他に分担講義があり、準備はなかなか大変でした。それでも、自身が重要だと思う気候変動に関するアウトリーチ活動として、2016年から教養教育の15回講義を始めました。「気候変動と現代社会」という科目名で国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書の要約を全文読みます。ちょうど、2013-14年の第5次評価報告書公開直後でしたので、その和訳をテキストにしました。初年度は100名、その後は200名前後の学生が聴講する人気講義にな

り、6年間で単位を取った学生数が1000名を超えました。この講義で多くの学生に気候変動問題の本質を理解してもらったことが、大学の活動中、一番良かったことだと思います。最終講義は「気候変動という不都合な真実－21世紀をどう乗り切るか」というタイトルで、今世紀の世界の気候変動への対応が22世紀以降の

世界を決めるという話です。動画サイト：https://www.youtube.com/watch?v=_uLrlyPwWTY に録画をアップしましたので、関心のある方はご覧ください。また、この7年間に、自然豊かな青森の自然探索、20数年ぶりにスキーを思い出し毎年十数回の滑走を楽しみました。



退職にあたって

理工学研究科（機械科学科）

村田 裕 幸

私は前の職場である海上技術安全研究所（三鷹市）を定年退職後、縁あって本学に5年間お世話になりました。着任当初は、大学教員という私にとって未経験の仕事をこなすことができるのか？ という不安を覚えながら講義スライドの作成に追われる毎日でしたが、次第に生活にも慣れ、何とか任期を全うすることができました。弘前は私にはこれまで馴染みのない土地でしたが、私の故郷である滋賀県彦根市と同じ古い城下町であり、落ち着いた町並みを散歩していると安らぎを感じました。また、通勤の途中、四季折々に咲く草花や、遠くに見える岩木山の姿の変化に季節の移り変わりを感じることができました。しかし、なんと言っても弘前公園の見事な桜（こちらは弘前に来る前から知っていましたが）を見るのが一番の楽しみで、毎年、春が来るのを待ち遠しく思っていました。

振り返ってみると、本学では前の職場では経験でき

なかった色々なことが経験できたと思います。大学を卒業して本学に赴任するまで30数年間、大学と身近に接する機会がそれ程なかったため、私の学生時代と現在の大学の姿との違いに戸惑いを覚えることもありましたが、卒業研究の指導や講義において若い学生諸君と議論したり、自身の経験について語ることができたことは大きな喜びでした。残念ながら、任期最後の2年間はコロナウイルス感染の影響により、大学での講義は元より、各種の学内行事や学会講演会をオンラインで実施せざるを得ないなど、色々と困難が生じ、（任期の後半に期待していた）週末にちょっと小旅行・・・といった楽しみは奪われてしまいましたが、弘前で5年間は非常に密度の濃い時間だったと思います。

最後になりましたが、これまで皆さんから賜ったご厚情に感謝すると共に、本学のますますのご発展をお祈りいたします。

理工学部と理工学研究科の就職状況

令和2・3年度 理工学部就職対策委員会委員長

黒川 敦

理工学部／大学院理工学研究科博士前期課程の就職率は、令和2年度（令和3年3月卒業／修了）が99.5％／97.8％、令和元年度が98.6％／98.9％、平成30年度が98.1％／100％です。理工学部の大学院進学率は令和2年度が41.1％、令和元年度が34.3％、平成30年度が40.0％です。

新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認されたのは2020年1月です。就職活動の最盛期に入る直前で学生も企業も例年通りの対面の説明会と面接の準備をしていました。しかし、3月になり緊急事態宣言が発出し、就職活動は大幅な変更を余儀なくされまし

た。この対象となったのが令和3年3月卒業／修了の学生です。初めて使うパソコン用カメラで右往左往しながら自宅からのWeb面接、前例がないためインターネット上にも情報量が少ない中での就職活動となりました。令和4年3月卒業／修了予定者の就職活動もまた新型コロナウイルスの影響が継続しています。IT・通信業界などは伸びているものの、一方でコロナの影響を受けた業界では採用人数の削減や採用を見送るなど、学生にとって選択肢の狭い、厳しい状況下が続いています。

次に十年以上前から感じている就職活動時期に関す

る疑問を述べたいと思います。政府は就職・採用活動日程を順守するよう要請しています。広報活動開始は3月1日以降、採用選考活動開始は卒業・修了年度の6月1日以降、正式な内定日は10月1日以降にするというものです。以前は経済団体連合会（経団連）が指針を出していましたが、2021年卒以降は経団連として就職・採用活動のルールを廃止したため、政府が主導となっています。例えばこの要請によると、説明会は3月までは、面接は6月まではやってはいけないこととなりますが、5月末の段階で全体の約6割の学生が内々定しています。内々定という言葉も、正式内定が10月1日以降という指針があるためそれまでは内々定と呼んで区別しています。3月までは説明会を実施できないため、業界研究会などと名称を変えている場合もあります。当学部の実情ですが、6月からの面接どころか、その半年前の12月に大手企業から早期選考と称し、内々定をもらっている学生もいます。就職活動時期は、学生にとっても企業にとっても、ある程度の目安は必要です。それは大学生活（授業や研究、サークルやバイト）や就職の準備（選定、エントリーシート作成）だけでなく、早くに内々定しても心変わりするなどの問題を含んでいるからです。しかし、要請と実際がこれほど乖離していると、インターネットで[就職時期]と検索したときに、要請の時期が上位に来て学生が勘違いして、手遅れになってしまう可能性すらあります。

次に令和3年度に就職対策委員会が実施した概要を述べます。令和4年3月卒業／修了予定者を主対象とした「理工学系学生のための進路選択準備講座」を4月に、「OB・OG講演会」・「企業人による講演会」・「本学博士後期課程修了生による進路ガイダンス」を12月に、「選考対策講座」を1月に実施しました。また、学部1年生を対象にした「博士前期課程修了生による就職ガイダンス」や学部2年生を対象にした「適性検査（MATCH plus 受験会）」も開催しました。キャリア教育の授業として、「キャリア形成の基礎」を昨年度から学部の教員が担当していますが、今年度は学長・理事・学部長などの講話以外に、より広い視野で物事が考えられるように男女共同参画推進室・ボランティアセンター・地域創生本部・国際連携本部による講話も入れました。

令和2年度の理工学部卒業生の進路集計を表1に、大学院博士前期課程修了生の進路集計を表2に示します。就職先の企業名など詳細につきましては、理工学部／大学院理工学研究科のホームページ（<https://www.st.hirosaki-u.ac.jp/>）、教育推進機構キャリアセンターのホームページ（<https://www.hirosaki-u.ac.jp/shushoku/index.html>）でもご確認いただけます。今後も大学・学部として学生の就職活動をしっかりとサポートしていく所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

表1 令和2年度（令和3年3月）理工学部卒業生の進路集計

	数物 科学科	物質創成 化学科	地球環境 防災学科	電子情報 工学科	機械 科学科	自然エネ ルギー学科	合計
進 学	22	28	15	25	44	6	140
農 業 ・ 林 業	0	0	0	0	0	0	0
建 設 業	3	0	2	2	2	2	11
製 造 業	2	5	2	5	16	4	34
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1	0	2	0	5	9
情 報 通 信 業	17	3	4	11	3	3	41
運 輸 業 ・ 郵 便 業	0	0	3	0	1	0	4
卸 ・ 小 売 業	3	0	2	1	3	2	11
金 融 ・ 保 険 業	0	0	0	3	0	1	4
不 動 産 業	0	0	1	0	0	0	1
飲 食 ・ 宿 泊 業	1	0	2	0	0	0	3
医 療 ・ 福 祉	2	0	1	0	0	0	3
公 務 員	2	4	18	4	3	4	35
教 員	2	0	0	0	0	0	2
そ の 他 の 産 業	2	2	13	1	4	1	23
未 就 職 ・ そ の 他	7	2	2	4	4	1	20
計	64	45	65	58	80	29	341

※地球環境防災学科には地球環境学科を、機械科学科には知能機械工学科をそれぞれ含む。

表2 令和2年度（令和3年3月）大学院博士前期課程修了生の進路集計

	数理科学 コース	物理科学 コース	物質創成 化学コース	地球環境学 コース	電子情報 工学コース	知能機械 工学コース	新エネルギー 創造工学コース	合計
進 学	0	1	1	0	0	2	0	4
建 設 業	0	0	0	0	1	1	0	2
製 造 業	0	3	17	1	7	22	1	51
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	1	0	3	2	0	6
情 報 通 信 業	2	1	2	4	8	0	0	17
運 輸 業 ・ 郵 便 業	0	0	0	0	0	0	0	0
教 員	0	0	1	0	0	0	0	1
公 務 員	0	0	1	1	0	0	0	2
そ の 他 の 産 業	2	0	2	2	0	4	0	10
未 就 職 ・ そ の 他	2	1	1	0	2	0	2	8
計	6	6	26	8	21	31	3	101

令和2年度 理工学部卒業・理工学研究科修了 祝賀会

令和2年度学位記授与式と同日の令和3年3月23日に、令和2年度理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会を開催することについて検討いたしましたが、令和元年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、社会へ羽ばたく新同樹会員へのエールを送れずに大変残念ではありますが、祝賀会を中止することといたしました。なお令和2年度学位記授与式は、来場者の制限など感染防止対策を徹底し、簡素化して開催されました。

学 生 表 彰

理工学部学生、理工学研究科大学院生は、日々研究活動に努力しています。特に、学会等からの表彰を受けた学生は以下のとおりです（令和3年2月以降）。今後とも学生の活躍にご期待ください。

■理工学部、理工学研究科博士前期課程（電子情報工学科、電子情報工学コース）
勝藤輝、橋本大輝、白岩駿人、斎藤菜那（チーム「学生IT支援部」）
2020年度アイデアソン+仙台 耐災害ICT研究センター賞

■理工学部、理工学研究科博士前期課程（電子情報工学科、電子情報工学コース）
大湯岳斗、榎木啓太、長内海斗（チーム「Team Sumio」）
2020年度アイデアソン+仙台 地域課題解決奨励賞

■理工学部（機械科学科）
田原蓮（4年）
日本機械学会東北学生会 第51回卒業研究発表講演会 独創研究学生賞

■理工学部（電子情報工学科）
工藤遼太郎（4年）
情報処理学会東北支部 学生奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）
松橋功大（2年）
電子情報通信学会東北支部 優秀学生表彰

■理工学研究科博士後期課程
王佩芬（3年）
第14回 GSC Student Travel Grant Award

■理工学研究科博士後期課程
Aisikaer Anniwaer（2年）
令和3年度化学工学会秋田大会 学生特別賞

■理工学研究科博士後期課程
Kitiphatpiboon Nutthaphak（2年）
令和3年度化学工学会秋田大会 学生特別賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
白井啓大朗（1年）
日本混相流学会混相流シンポジウム2021 ベストプレゼンテーションアワード

■理工学研究科博士前期課程（地球環境防災学コース）
小林英史（1年）
2021年日本地球化学会第68回年会 学生奨励賞

■理工学研究科博士後期課程
Nichaboon Chaihad（3年）
The Second International Symposium of Young Scholars on Carbon Resources Conversion (YSCRC-2021) Best Oral Presentation Award

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
瀬田雄元（2年）
日本臨床バイオメカニクス学会 優秀論文賞

■理工学研究科博士前期課程（数物科学コース）
小野皓多（2年）
令和3年度東北ORセミナー若手研究交流会 学生優秀発表賞

■理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）
奈良崎萌花（1年）
2021高分子学会東北支部研究発表会 若手優秀発表賞

■理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）
磯嶋柚希（2年）
2021年度材料技術研究協会 優秀口頭講演賞

■理工学部（物質創成化学科）
込山ひなた（4年）
2021年度材料技術研究協会 ゴールドポスター賞

■理工学部（物質創成化学科）
飯塚大登（4年）
2021年度材料技術研究協会 ゴールドポスター賞

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）
勝藤輝（チーム「とことん Enjoy 東北」に所属）
アイデアソン+仙台2021 地域課題解決奨励賞

■理工学部（電子情報工学科）
安藤亮英、福田光起（チーム「食品ロスなくし隊」に所属）
アイデアソン+仙台2021 The Greenest City Sendai 賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
太田風輝（2年）
第55回日本生体医工学会東北支部大会 Young Investigator Award

■理工学部（地球環境防災学科）
上野優（4年）
日本気象学会東北支部研究会 気象学会東北支部発表賞

令和2(2020)年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

令和3年3月31日

◆一般会計

収 入	支 出	繰 越
5,816,287	650,289	5,165,998

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	4,536,282	4,536,282	0	令和元年度より
会 費	1,400,000	1,280,000	△ 120,000	正会員 128人 学部 1年(2年度入学) 64人 640,000円 1年(元年度入学) 29人 290,000円 2年 1人 10,000円 3年 1人 10,000円 4年 24人 240,000円 既卒 1人 10,000円 院生 1年 6人 60,000円 2年 2人 20,000円 後期課程 0人 0円
卒業・修了祝賀会 当日会費納入分	75,000	0	△ 75,000	新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止
雑 収 入	100	5	△ 95	預金利息
計	6,011,382	5,816,287	△ 195,095	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	令和2年度負担金
印 刷 費	266,500	192,720	△ 73,780	会報第21号 1,300部(178,750円) 理工学部同樹会用払込取扱票印刷代(13,970円)
卒業・修了祝賀会費	351,000	0	△ 351,000	新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止
写 真 代	0	0	0	
通 信・運 搬 費	50,000	36,410	△ 13,590	加入案内送料(研究科新入生)(4,970円) 未加入者へ加入案内送料(学部4年)(30,380円) 会報送料他(1,060円)
会 議 費	10,000	0	△ 10,000	
事 務 費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	20,000	19,608	△ 392	ラベル用紙、封筒他
郵便振替払込料	36,600	29,551	△ 7,049	会費払込手数料(128人)、郵送通知料金(57通)
予 備 費	4,905,282	0	△ 4,905,282	
計	6,011,382	650,289	△ 5,361,093	

◆特別会計

収 入	支 出	繰 越
5,001,699	0	5,001,699

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	5,001,559	5,001,559	0	令和元年度より
雑 収 入	500	140	△ 360	預金利息
計	5,002,059	5,001,699	△ 360	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
特 別 事 業 他	0	0	0	
予 備 費	5,002,059	0	△ 5,002,059	
計	5,002,059	0	△ 5,002,059	

令和3(2021)年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

令和3年4月1日

◆一般会計

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	5,165,998	4,536,282	629,716	令和2年度より
会 費	1,400,000	1,400,000	0	正会員 140人×@10,000円 学部 1年 100人 2年 3人 3年 2人 4年 25人 院生 10人
卒業・修了祝賀会 当日会費納入分	75,000	75,000	0	30人×@2,500円
雑 収 入	100	100	0	預金利息
計	6,641,098	6,011,382	629,716	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	令和3年度負担金
印 刷 費	195,000	266,500	△ 71,500	会報第22号 1,300部×@150円
卒業・修了祝賀会費	351,000	351,000	0	130人×@2,700円
通 信・運 搬 費	50,000	50,000	0	加入案内送料(研究科新入生) 100人×@120円 加入案内送料(学部学生4年) 250人×@140円 会報送料他(3,000円)
会 議 費	10,000	10,000	0	
事 務 費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	20,000	20,000	0	ラベル用紙、封筒他
郵便振替払込料	35,700	36,600	△ 900	会費払込手数料 140人×@200円 郵送通知料金 70通×@110円
予 備 費	5,607,398	4,905,282	702,116	
計	6,641,098	6,011,382	629,716	

◆特別会計

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	5,001,699	5,001,559	140	令和2年度より
雑 収 入	500	500	0	預金利息
計	5,002,199	5,002,059	140	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
特 別 事 業 他	0	0	0	
予 備 費	5,002,199	5,002,059	140	
計	5,002,199	5,002,059	140	

編集後記

平成17年度より幹事を務めております一條です。
今号第22号から横書きスタイルにリニューアルいたしました。いかがでしょうか。

1面の青葉様からの、在学時の研究室での取組と現在のお仕事との関わりや、理工学部ならではのモノづくりの楽しさについてのご寄稿は、現在在学中の後輩に向けて大変参考になるお話です。

2～4面にご寄稿いただいた定年退職の先生方は、企業や研究機関から大学にご着任された先生方でした。ご着任後の大学ならではの講義や研究指導に対する熱意が、ご寄稿からひしひしと伝わり、先生方のもとから多くの優れた同窓生が巣立っているのを感じます。

4～5面の黒川就職対策委員長のご寄稿からは、長引くコロナ禍で、引き続き厳しい就職活動に臨む学生のご苦労が読み取れます。その中でも就職率の観点では健闘しているように思われ、また6面にあるとおり、学生は勉学においても活躍しております。

前号と同様に今号もまたコロナ禍に伴い、紙上職場訪問はお休みとし、大変残念ながら卒業・修了祝賀会を中止とした旨をお知らせいたしました。

先の見えないコロナ禍ですが、ウィズコロナ、アフターコロナに向けた同樹会運営について、皆様方からのアイデアやご協力をお寄せいただければ幸いです。

役員一覧

会 長	千葉 信 行	
副 会 長	山 上 佳 男	
幹 事	早 川 博 文	(理学部数学科卒(元弘前高校教員)・理工学部非常勤講師)
一 條 健 司		(理工学研究科准教授)
芹 田 美穂子		(弘前大学生生活協同組合職員)
監 査 須 藤 勝 弘		(総務部付技術専門職員・情報連携担当)
荒 木 宏 孝		(理工学研究科教育研究支援室技術専門職員・副室長)
名 誉 会 長	佐 藤 裕 之	(理工学研究科長・理工学部長)
顧 問	加 藤 博 雄	(前理工学研究科長、弘前大学名誉教授)
宮 永 崇 史		(元理工学研究科長)
吉 澤 篤		(元理工学研究科長、弘前大学理事(企画担当)・副学長)
稲 村 隆 夫		(元理工学研究科長、弘前大学名誉教授)

(敬称略)

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健 司

住所：〒036-8561 弘前市文京町三

電話：0172-39-3660

E-mail：keng@hirosaki-u.ac.jp

URL：https://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/

